

BrightLeap 受講のご案内

2024年12月 ver.5

株式会社RTDグローバルエージェント

RTD.inc
Romance & Technology on Dream

Copyright(C)2024 RTD.Inc.All Rights Reserved.

1. 取り組みの背景

企業をとりまく経済・社会環境が大きく変化する中で、価値を創造し、市場において必要とされ続けるための変革の取組としてデジタルトランスフォーメーション(DX)の有用性は広く知られるようになりました。

その中でデジタル人材の育成については、企業内での取組が徐々に進みつつあるものの、DXの進展に伴う人材需要の高まりに追いついていないというのが現状であり、リスクリングによる企業内人材の活用や職種転換への期待も高まっています。

そのような中、2022年末から始まったChatGPTの流行を始めとする生成AIの登場により、企業・産業において生成AIを利用し、様々な業務変革や事業変革が実現可能となってきました。またこれまで必ずしもデジタル技術を上手く利用できていなかった企業も、その遅れを生成AI等の利用で取り戻すそうとする動きも現れています。

生成AIを有効に活用していくことのできる人材を貴社の社員様並びに関連する人材で投与することにより貴社におきましても事業範囲の拡大や未来的展望に繋がる取組みを促進させてさせるべく本サービスがお役に立てる一助となれば幸いです。

生成AIを活用することで、従来AIが適用しづらかった領域も含めて様々な業態・業務変革が実現可能となります。さらにその活用領域は多岐にわたっております。

マーケティング



営業



カスタマー
サポート・サクセス



経理



製造



流通
&オペレーション



人事



研究開発

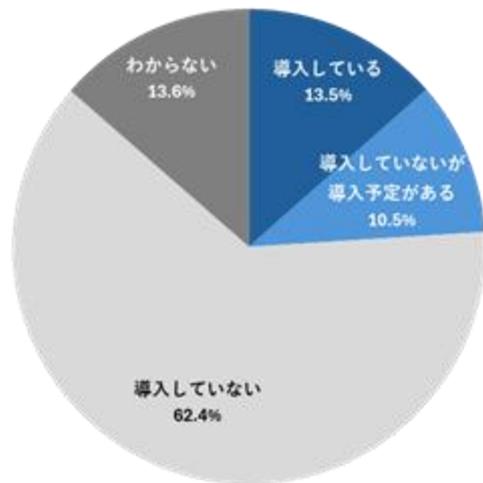


法務

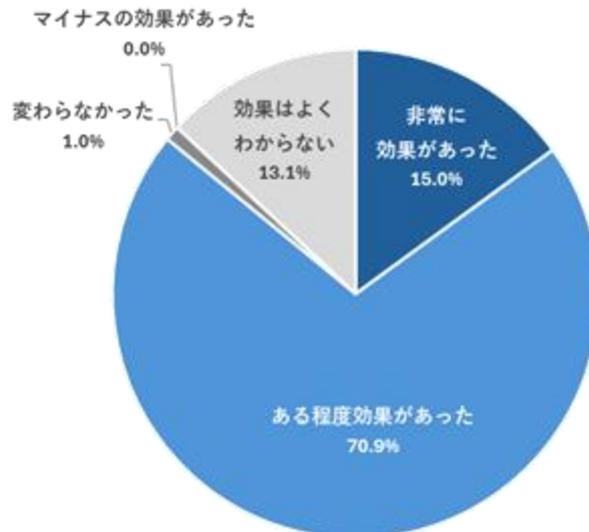


日本企業におけるAI導入割合はかなり低い状況です。導入による効果が一定程度見られているのにも関わらず導入率が低い理由としては、人材育成の啓蒙と人材確保がなされていないことが挙げられます。

企業におけるIoT・AI等のシステム・サービスの導入状況



企業におけるIoT・AI等のシステム・サービスの導入効果

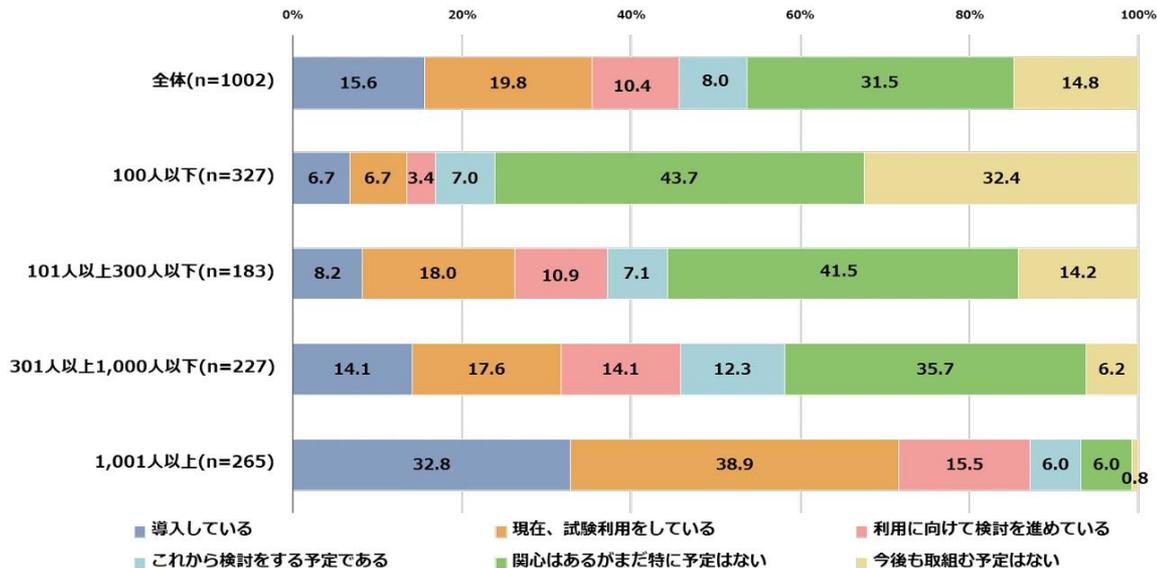


デジタル人材の確保に向けた取組状況 (AI・データ解析の専門家)

社内の既存人材の配置転換や育成	31.7%
採用(新規・中途両方を含む)	21.6%
コンサルタントなどの社外の専門家との契約	17.3%
関連会社からの異動・移籍・出向	11.3%
その他	0%
わからない	20.4%
何も取り組んでいない	18.3%

(出典)総務省「通信利用動向調査」

図表 2-9 生成AIの導入状況（従業員規模別）



出典：独立行政法人情報処理推進機構「DX動向2024」（2024）

中小企業の生成AI利用率

13.4%

大企業の生成AI利用率

71.7%

**生産性向上のために
学習が必須**

2. DX人材育成カリキュラム



広瀬安彦 氏

株式会社野村総合研究所（現）
未来創発センター
雇用・生活研究室 エキスパート研究員

経歴

慶応義塾大学文学部卒

青山学院大学
社会情報学研究科にて博士前期課程

北海道大学大学院
国際広報メディア・観光学院にて博士後期課程を修了。博士（国際広報メディア）。

大日本印刷株式会社を経て2001年に株式会社野村総合研究所に入社。（現）
専門は雇用・生活者研究、データサイエンティストの育成、インターネットによる広報戦略、M-GTA
（Modified Grounded Theory Approach）を用いた質的研究。

明星大学経営学部 非常勤講師。（現）

日本生産性本部 経営アカデミー講師。（現）



広瀬安彦著



デジタルスキル標準の構成

- デジタルスキル標準は「DXリテラシー標準」と「DX推進スキル標準」の2つの標準で構成され、前者はすべてのビジネスパーソンに向けた指針及びそれに応じた学習項目例を定義し、後者はDXを推進する人材の役割（ロール）及び必要なスキルを定義している。

デジタルスキル標準

DXリテラシー標準



- 以下の指針及び、それぞれの指針において学習が期待される項目（学習項目例）を定義している。
 - DXに関するリテラシーとして身につけるべき知識の学習の指針
 - 個人が自身の行動を振り返るための指針かつ、組織・企業が構成員に求める意識・姿勢・行動を検討する指針

DX推進スキル標準



- DX推進に必要な人材類型（ビジネスアーキテクト/デザイナー/データサイエンティスト/ソフトウェアエンジニア/サイバーセキュリティ）について類型ごとに、ロール及び必要なスキルを定義している。

DXリテラシー標準

対象者：新人・若手・中堅・管理職

DXリテラシー講座

- ・約12時間の受講時間を予定しております
- ・計画書を作成した段階で貴社用に一部コンテンツの差し替えが発生場合がございます。

タイトル	番号	サブタイトル	時間(分)	
ゼロから始めるDXの学び (理解編)	01	DXの全体像	4	
	01	DXとは	14	
	02	これからの社会-Society 5.0	14	
	03	日本政府のDX推進施策	11	
DX概論	04	DX推進指標	11	
	01	デジタルスキル標準	13	
	02	デジタルスキルマップ	18	
	03	デジタル人材育成のあり方	15	
DX人材概論	04	組織づくり・人材・企業文化に関する方策	12	
	01	デジタル産業における日本の課題	17	
	02	デジタル産業宣言	13	
	03	デジタル産業指標①	12	
デジタル産業効果	04	デジタル産業指標②	14	
	01	スーパーシティ構想	17	
	02	デジタル田舎都市国家構想	12	
	03	デジタル田舎都市事例	10	
DXがもたらす未来	04	モデル地域ビジョン	13	
	01	産業革命の変遷	16	
	02	科学の発展	15	
	03	第5次産業革命概要	16	
第5次産業革命概論	04	復習問題	4	
	ChatGPT講義オープニング			4
	01	ChatGPTのしくみ	7	
	02	ChatGPTの便利な使い方	7	
1講 ChatGPTとは	03	ChatGPTの歴史	7	
	04	ChatGPTの魅力	6	
	05	無制限かつ無料プラン	5	
	06	ChatGPTの登録 (講義)	3	
	07	ChatGPTの登録 (実技)	3	
	08	利用の際の注意点	8	
	09	初期設定を確認する (講義)	3	
	10	初期設定を確認する (実技)	—	
	01	ChatGPTに質問する (講義)	7	
	02	ChatGPTに質問する (実技)	4	
2講 基本的な使い方をマスターする	03	文章の作成 (講義)	4	
	04	文章の作成 (実技)	4	
	05	文章の検閲・校正・要約 (講義)	4	
	06	文章の検閲・校正・要約 (実技)	4	
	07	複数言語の翻訳 (講義)	5	
	08	複数言語の翻訳 (実技)	4	
	09	情報収集 (講義)	6	
	10	情報収集 (実技)	9	

タイトル	番号	サブタイトル	時間(分)
3講 プロンプトを理解して出力の精度を上げる	01	プロンプトエンジニアリングとは	6
	02	zero-shotとfew-shot (講義)	6
	03	zero-shotとfew-shot (実技)	6
	04	プロンプト作成の基礎 (講義)	4
	05	プロンプト作成の基礎 (実技)	4
	06	文章を箇条書きに修正する (講義)	4
	07	文章を箇条書きに修正する (実技)	2
	08	文章の対象を変更する (講義)	4
	09	文章の対象を変更する (実技)	5
	10	文章を会話のやりとりに変更する (講義)	5
	11	文章を会話のやりとりに変更する (実技)	5
4講 ビジネスの現場で活用する (事務編)	01	会議のアジェンダを作成する (講義)	5
	02	会議のアジェンダを作成する (実技)	5
	03	会議の議事録を作成する (講義)	4
	04	会議の議事録を作成する (実技)	5
	05	業務の手順を分解する (講義)	6
	06	業務の手順を分解する (実技)	4
	07	メールを作成する (講義)	6
	08	メールを作成する (実技)	5
	09	伝達事項を整理してまとめる (講義)	4
	10	伝達事項を整理してまとめる (実技)	5
	5講 ビジネスの現場で活用する (営業編)	01	よくある質問の回答例を作成する (講義)
02		よくある質問の回答例を作成する (実技)	4
03		質問にリアルタイムに回答する (講義)	7
04		質問にリアルタイムに回答する (実技)	7
05		営業スク립トを作成する (講義)	9
06		営業スク립トを作成する (実技)	3
07		商談の準備をする (講義)	6
08		商談の準備をする (実技)	6
09		提案内容をわかりやすくまとめる (講義)	5
10		提案内容をわかりやすくまとめる (実技)	3
6講 ビジネスの現場で活用する (マーケティング編)		01	競合分析 (講義)
	02	競合分析 (実技)	4
	03	市場調査 (講義)	5
	04	市場調査 (実技)	4
	05	ブログ記事やニュースレターを作成する (講義)	6
	06	ブログ記事やニュースレターを作成する (実技)	7
	07	マーケティング施策のアイデア出し (講義)	8
	08	マーケティング施策のアイデア出し (実技)	6
	09	ブランドストーリーの作成 (講義)	7
	10	ブランドストーリーの作成 (実技)	4

タイトル	番号	サブタイトル	時間(分)
7講 SNS運用に活用する	01	Xの投稿案を生成する (講義)	5
	02	Xの投稿案を生成する (実技)	3
	03	投稿カレンダーを作成する (講義)	5
	04	投稿カレンダーを作成する (実技)	5
	05	ハッシュタグを生成する (講義)	5
	06	ハッシュタグを生成する (実技)	4
	07	YouTubeの台本を作成する (講義)	5
	08	YouTubeの台本を作成する (実技)	4
	09	分析結果を整理する (講義)	5
	10	分析結果を整理する (実技)	6
8講 画像を活用する	01	画像を生成する (講義)	5
	02	画像を生成する (実技)	3
	03	ブログのサムネイルを作成する (講義)	5
	04	ブログのサムネイルを作成する (実技)	6
	05	プレゼンテーションの挿入画像を生成する (講義)	4
	06	プレゼンテーションの挿入画像を生成する (実技)	3
	07	写真をもとにイラストを生成する (講義)	4
	08	写真をもとにイラストを生成する (実技)	5
	09	写真をもとにInstagramの投稿を作成する (講義)	5
	10	写真をもとにInstagramの投稿を作成する (実技)	7
9講 データを活用する	01	エクセルやPDFなどをアップロードする (講義)	5
	02	エクセルやPDFなどをアップロードする (実技)	8
	03	データを使ってグラフを作成する (講義)	3
	04	データを使ってグラフを作成する (実技)	4
	05	作成したグラフを画像としてダウンロードする (講義)	2
	06	作成したグラフを画像としてダウンロードする (実技)	2
	07	保存のデータを並び替える (講義)	4
	08	保存のデータを並び替える (実技)	5
	09	作成したデータを指定した形式で保存する (講義)	3
	10	作成したデータを指定した形式で保存する (実技)	4



BrightLeapのLMS（学種管理システム）では、受講者の進捗管理状況が確認できます

ログイン
https://brightleap.jp

ユーザー名

パスワード

キャンセル ログイン

管理者ID・PASS入力



BrightLeap テスト 太郎

受講状況

受講進捗状況一覧

許可・受講状況

アカウント

受講状況一覧
TOP > 受講状況一覧

対象講座 DX研修(2024/12/15 ~ 2024/12/17) 表示

進捗状況を確認したい講座を選んで表示ボタンを押してください

©2024 BrightLeap

進捗確認期間の選択



BrightLeap テスト 太郎

受講状況

受講進捗状況一覧

許可・受講状況

アカウント

受講状況一覧
TOP > 受講状況一覧

対象講座 DX研修(2024/12/15 ~ 2024/12/17) 表示

ユーザの受講状況詳細を確認するには名前の横の「>」を押してください

	氏名	メールアドレス	進捗状況	結果
>	テスト 太郎	saburo_test@example.com	100%	合格 (2024/12/19)
>	テスト 次郎	jiro_test@example.com	50%	着手済み
>	テスト 太郎 営業部長	test_taro@example.com	0%	未着手
>	テスト 花子	hanako_test@example.com	100%	合格 (2024/12/19)

©2024 BrightLeap

受講者の学習進捗確認画面

DXリテラシー標準

受講ターゲット	対象階層 : 新人・若手・中堅・管理職
学習目標	本件は、「デジタルスキル標準」に完全に対応することによって、社員ひとりひとりがDXに関わることができ、更には企業全体でDXを推進できるようになることを目的としています。
学習時間	約12時間
期間	2ヶ月
受講費用	33万円（税込）／人

DX推進スキル標準

貴社の業態に応じて講座をご用意することが可能です。

3. 運営会社

会社名	株式会社RTDグローバルエージェント
所在地	〒104-0045東京都中央区築地6-4-5シティスクエア築地702
資本金	10,000,000円
設立年度	2001年6月
代表者	岡安雄一郎
業務内容	E-ラーニング講座
取引銀行	三井住友銀行飯田橋支店・みずほ銀行浅草支店・昭和信用金庫京橋支店



Romance & Technology on Dream

Let be ! Enjoy With RTD !